みんなでつながる　学び合う

7月からの紙面には、新しい企画が続々と登場します。読者のみなさまと記者たちがより深くつながることをめざし、仕事や暮らしに役立つ「学び」をお届けしていきます。今まで以上に、楽しみながら手にとっていただけるような新聞をめざします。



科学医療部・藤波優記者
「『リケジョ』はなくなるのか」

スポーツ部・野村周平記者
「東京五輪にできること」

経済部・藤えりか記者
「シネマニア・サロン」など

東京五輪組織委員会の橋本聖子会長との対談では、大会の開催可否について自分の迷いを率直に伝えました。通常の記事では心の揺れ動きをあまり表現しない。動画だから伝わる記者の体温を感じ取って頂ければ、うれしいです

女性研究者はなぜ少ないのか、課題や支援策について記者サロンで話し合いました。様々な立場の方から疑問や考えが寄せられ、同じ問題意識を持つ人に共感したり、新たな問題に気づいたり。「もっと取材してみよう」と背中を押された気持ちになりました

欧州で最もデジタル化した国フィンランドやフード配達員の働き方などをテーマに複数回、また映画産業を通して世界を考えるシネマニア・サロンも定期開催しています。参加者との双方向のやり取りを心がけ、次の取材にも生かしています

記者サロン The Reporters' Salon　月2回 月曜

新しい報道のかたち 探りたい

ウィズコロナ時代の新しいジャーナリズムのかたちを模索したい――。コロナ禍でリアルイベントの中止が相次いだ昨春、そんな思いから、人と人、人と社会がつながる機会を提供するオンライン記者イベント「記者サロン」は始まりました。7月からは月2回、月曜日にイベントの模様を紙面で紹介します。

記者自ら どんな思いで取材し、記事への反響を通して何を考えているのか。そこから見えてきた課題や解決策は。各界のゲストを招くなどして語り合い、視聴者から寄せられた質問にも答えます。

この1年余りで開いてきたオンライン記者イベントは、「コロナと就活」「スマホ・SNS・ゲーム……子どもとオンライン」「空から見よう！ いろんな古墳」「せめぎ合う米中 日本の針路」「福岡伸一さんに聞く！『新・ドリトル先生物語』薬生態系」など計50本余り。のべ3万8千人余が視聴しました。

現在募集中のイベントは、記者イベントカレンダー（https://www.asahi.com/eventcalendar/）からご覧いただけます。平日や週末のひととき、一緒に考えてみませんか。多様な企画をそろえて、お待ちしています。

まなび場 天声人語　見出し作り挑戦　英語の勉強応援　月2回 月曜

朝日新聞の顔とも言える朝刊1面のコラム「天声人語」。さまざまなニュースを題材に、603文字で世相をとらえながら短くまとめています。

天声人語は、書き写しやスクラップ、受験対策としての要約など、色々な方法で活用されています。さらに新たな活用方法として、読解力アップにも役立つ「見出し作り」と、時事英語が身につく「英語講座」を紙面で始めます。

「見出し作り」は、文章が訴えたいことを短い言葉で表現する訓練にぴったりです。毎月、お題となる天声人語を読み込み、見出し作りに挑戦しませんか。読者のみなさんの投稿から選ばれた優秀作は紙面で紹介します。本社編集者による見出し作りのコツもお伝えします。

「英語講座」は、天声人語本文と全文の英訳を対訳形式で掲載します。時事英単語解説や役立つフレーズを紹介します。

「見出し作り」「英語講座」は7月から毎月それぞれ1回、原則として月曜日に掲載します。

初回の見出し作りのお題は、この紙面に掲載している6月7日付の天声人語です。下の応募の決まりを読んで投稿してください。多くの方の参加をお待ちしています。

6月7日付 見出し募集
締め切り 7月11日

天声人語

せっかくメッセージを送ったのに、読むだけ読んで相手が返信をくれない「既読スルー」。そのたび返事が来るか来ないか気になって、何度もスマホの画面をのぞいてしまう▼既読スルーに心がモヤつくのは人間だけかと思いきや、シロイルカも同じらしい。最近の研究で、仲間と鳴き交わす際、スルーされると黙っておらず、返事を催促していることがわかった▼三重大学の森阪匡通・准教授(44)らの研究。水族館の水槽に録音器をつけ、鳴き方を調べた。仲間に「ギー」と声をかけ、1秒ほど待っても返事がないと、再び「ギー」と畳みかける行動が高い確率で観測された。「返事ぐらいして」と言わんばかりの催促ではないか▼イルカやサル、クジラなど社会性を持ち、音声を多用する動物は、鳴き交わしが成立しないと安心感を失います」と森阪さん。シロイルカの世界にも存在した「既読スルー」を解明したその論文は、哺乳類学の専門誌に掲載された▼英国の進化人類学者ロビン・ダンバーによると、人と人の会話は、サル同士の毛づくろいに近い機能を持つ。あなたに関心がある、良好な関係を持ちたいと伝える、いわば遠隔の毛づくろい。会話の中身はともかく、言葉を交わすのが大切なのだという▼森阪さんの研究室で、シロイルカの声を聞いた。キッキッキという高音からドアがきしむような音まで、やり取りは音域が広く、緩急も自在。シロイルカの会話の豊かさにならい、「既読スルー」を少し減らそうかな。

2021・6・7

天声人語

Vox Populi, Vox Dei

せっかくメッセージを送ったのに、読むだけ読んで相手が返信をくれない「既読スルー」。そのたび

Every time I am "left on read" after sending someone a message, I feel put off and can't help checking my smartphone repeatedly for their response.

応募の決まり　以下の2点を投稿してください

- 15字以内の見出し
  カギカッコや句読点は、文字数に数えません
- 応募した見出しを考えた理由（100～200字）
  理由を含めて優秀作を選考します

6月7日付の天声人語を読み、15字以内の見出しと、見出しを考えた理由（100～200字）を投稿してください。理由を含めて優秀作を選考します。優秀作は紙面で紹介し、図書カード3千円分を差し上げます。

応募はhttp://t.asahi.com/manabibatenjinへ。右のQRコードからも応募できます。はがきの場合、住所・氏名・年齢（在学中の場合は学年も）を記入の上、〒104・8011　朝日新聞コンテンツ編成本部「まなび場天声人語」係へ。締め切りは7月11日（消印有効）。投稿者の中から抽選で20人に、新聞を使った学びに役立つグッズを差し上げます。お問い合わせはmanabibatenjin@asahi.comへ。

天声人語の見出し作りに挑戦しませんか

見出し（15字以内。カギカッコや句読点は除く）と、この見出しにした理由（100～200字）を添えてお送りください。詳しくは上記のご案内記事またはQRコードから

※朝日ID登録をしなくても応募・投稿できます

まずは、１回目にチャレンジ！　（締め切り７月11日・消印有効）

※裏面にワークシートも

まなび場 天声人語 見出し作り挑戦

6月7日付 見出し募集
締め切り 7月11日

天声人語

せっかくメッセージを送ったのに、読むだけ読んで相手が返信をくれない「既読スルー」。そのたび返事が来るか来ないか気になって、何度もスマホの画面をのぞいてしまう▼既読スルーに心がモヤつくのは人間だけかと思いきや、シロイルカも同じらしい。最近の研究で、仲間と鳴き交わす際、スルーされると黙っておらず、返事を催促していることがわかった▼三重大学の森阪匡通（たかみち）・准教授(44)らの研究。水族館の水槽に録音器をつけ、鳴き方を調べた。仲間に「ギー」と声をかけ、1秒ほど待っても返事がないと、再び「ギー」と畳みかける行動が高い確率で観測された。「返事ぐらいして」と言わんばかりの催促ではないか▼「イルカやサル、クジラなど社会性を持ち、音声を多用する動物は、鳴き交わしが成立しないと安心感を失います」と森阪さん。シロイルカの世界にも存在した「既読スルー」を解明したその論文は、哺乳類学の専門誌に掲載された▼英国の進化人類学者ロビン・ダンバーによると、人と人の会話は、サル同士の毛づくろいに近い機能を持つ。あなたに関心がある、良好な関係を持ちたいと伝える、いわば遠隔の毛づくろい。会話の中身はともかく、言葉を交わすのが大切なのだという▼森阪さんの研究室で、シロイルカの声を聞いた。キッキッキという高音からドアがきしむような音まで、やり取りは音域が広く、緩急も自在。シロイルカの会話の豊かさにならい、「既読スルー」を少し減らそうかな。

2021・6・7

見出し

▼見出し（十五字以内。カギカッコや句読点は除く）と、この見出しにした理由（一〇〇～二〇〇字）

200

100

学校名

年　組　氏名

18字×12行

見出し

▼見出し（十五字以内。カギカッコや句読点は除く）と、この見出しにした理由（一〇〇～二〇〇字）

200

100

学校名

年　組　氏名

18字×12行